

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 16 日現在

機関番号：32206

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K11815

研究課題名(和文) Webコミュニティを用いた訪問看護情報・知識の創発・学習プログラムの構築

研究課題名(英文) A Study on the Making the Learning and Emergence Program about the Visiting Nursing Information and Knowledge on Using the Web Site

研究代表者

王 麗華 (WANG, LIHUA)

国際医療福祉大学・保健医療学部・准教授

研究者番号：20438774

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、訪問看護師が在宅療養者およびその家族の健康維持のため、適切な支援により本人と家族が望む在宅療養生活の継続につなげることを目的に実施した。最初は訪問看護師のケア情報の利用の実態を明確するためにインタビュー調査を行った。訪問看護師などの学習ニーズを明らかにし、セルフヘルスケアにつながる「ワークショップ」を企画実施した。また、ワークショップの内容や支援情報をWEBサイトに公開し支援している。そして、健康管理に関する情報や教育プログラムはWEBを通じて提供することで、セルフヘルスケアは様々な場面で利用可能であることを明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This study aimed making clear how visiting nurses should support the house patients and their families to keep their health and to continue their daily lives which they hope. To begin with our study, we investigated the interview surveys to know how visiting nurses used the care information about the house patients and their families. Next, we made clear what visiting nurses needed to learn, and we had plan and executed the workshop about the self-care. And we exposed about the workshop and support information on our web site to support the house patients. Finally, this study suggested that offering the health management and the self-care education program through the web site was effective and we could use these self-care programs on various situations.

研究分野：在宅看護学

キーワード：在宅看護 Webサイト セルフヘルスケア

## 1. 研究開始当初の背景

在宅ケアおよび健康の維持・増進に関する情報・知識の共有は関係者によって病院、療養者の居宅などさまざまな「場」で行われている。さらに、在宅療養支援を支えている訪問看護師は所属も様々であり、頻りに共通の「場」での情報共有や相互学習の機会は得にくい。これは、ICT 技術の活用が知識創発にとって重要であるという認識を示している。在宅療養支援において多岐にわたる情報・知識を必要とする訪問看護師は、特定の物理的な「場」だけではなく、ICT 技術を活用して訪問看護師間での情報交換および知識共有ができる環境を整備すれば、在宅療養支援の知識創発は可能である。それぞれの経験を情報として発信し、その情報・知識の創発によって学習資源として再び提供する。よって、Web サイトをコミュニティ上に訪問看護情報の創発する場を構築し、訪問看護に関する学習資源として活用する。訪問看護情報の Web サイトを多くの看護師が利用しやすいと考えられる。

## 2. 研究の目的

地域で暮らす人々とその家族の在宅療養支援に必要な訪問看護に関する情報を、WEB サイトのコミュニティに構築する。Web コミュニティ上に訪問看護師が必要としているケア情報を構築し、訪問看護に関するケアや健康維持に関する情報資源として提供する。在宅ケア、訪問看護情報が WEB サイトで多くの看護師が利用できるようにし、および地域の健康支援在宅療養支援の質を高めることを目指す。

- (1)在宅看護の教育の内容を明らかにし、訪問看護師のケア情報の利用における内容、課題を特化する。
- (2)特化された内容を訪問看護師および研究組織によりワークショップを開催し解決策を立てる
- (3)セルフケア・訪問看護情・Web を通じて、多くの地域住民および在宅療養者、看護師が利用できるようにし、地域健康支援と在宅療養支援の質を高めることを目指す。

## 3. 研究の方法

- (1)在宅看護の教育内容を明らかにすることともに、訪問看護師の情報利用における内容、課題などの実態を把握する。そのため、訪問看護師に質的研究手法にて訪問看護師を対象にインタビュー調査を行う。
- (2)上記(1)で明らかになった課題を訪問看護師、多職種とのワークショップにより対応法を立てる。
- (3)上記(2)で明らかになって問題、ニーズの

対応できる方策の開発に向け、医療職、療養者を対象に体験ワークショップを開催し、その内容を WEB の開設と運用を行う。

## 倫理的配慮:

インタビュー調査については、国際医療福祉大学倫理審査委員会の承認を得て実施した。研究目的と方法、個人情報の取り扱い、参加と協力の自由度について、文書にて説明し同意を得た。

## 4. 研究成果

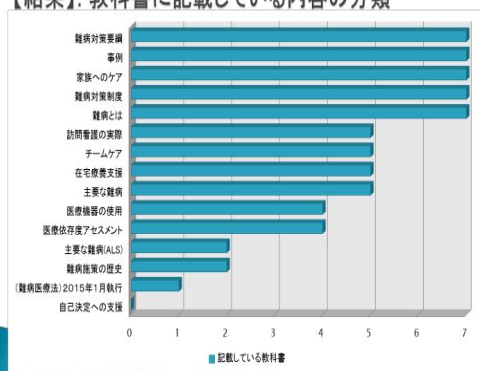
- (1)在宅看護の教育の内容を明らかにし、訪問看護師の学習における情報利用における実態を明らかにするため、インタビュー調査、在宅看護基礎教育教科書の分析を行った。

在宅看護学教育において、看護基礎教育で使用されている在宅看護論の教科書を比較し、統合分野の位置づけに適應する教育方法を検討することを目的にインターネットで公開されている看護系大学のシラバスに紹介されている教科書、もしくは参考図書のパブリッシャーにおける在宅看護の最新版を選出した。教科書の出版社名を記号化し表記し、その中から「難病患者の在宅看護」に関する章から「節」「項」を抽出しコード化した。意味内容の類似性から分類しカテゴリー化した。在宅看護論の分析対象とした教科書は出版社 5 社、在宅技術に関するもの 1 冊を含め 8 冊とした。発刊年数は、2015 年 1 冊、2014 年 1 冊、2013 年 2 冊、2012 年 3 冊であった。

「難病患者の在宅看護」に関する記載が最も多かった教科書は 21 ページで全体の 5.9%を占めていた。最も少なかったものは 4 ページで全体の 1.4%であった。7 冊教科書の内容を分析すると「難病施策の歴史」「難病の定義と主な難病」「難病対策および制度」「家族への支援」「自己決定への支援」「在宅療養の事例」「医療依存度のアセスメント」「日常生活への支援」「医療機器の使用について」「チームケア」の 10 カテゴリーに分類された。その中で「難病の定義と主な難病」、「難病対策および制度」、「家族への支援」の記載が最も多く、7 冊すべて記載されていた。「在宅療養の事例」を用いて難病患者の在宅療養の実践を記載していたのは、6 冊であった。次に、「チームケア」5 冊で、「医療依存度のアセスメント」「医療機器の使用について」4 冊であった。「難病施策の歴史」2 冊で、「自己決定への支援」1 冊と少ない記載であった。統合分野である在宅看護の教科書に難病の記載が少ない状況は、学生にとって難病の在宅療養対象への認識を希薄化しやすい。また、医療技術の高度化などを背景に、自宅で療養する患者が増加し、難病の在宅看護の社会的ニーズが高まることを

考えると教育内容の再構成が必要である。他科目の教育内容と連携を強め、在宅看護額(論)科目の内容を深めていく必要があるということが示唆された。

【結果】:教科書に記載している内容の分類



訪問看護師は在宅療養者の家族に対するケア行動を目的にインタビュー調査を行った。

対象は訪問看護経験3~18年、30~59歳の女性訪問看護師で、研究同意のとれた13名であった。

調査の結果から44コードが抽出され、訪問看護師は《看護師が目指す家族介護ができるように粘り強く関わる》ために、《家族介護者の介護力に合わせ》たり、《家族を巻き込んで療養者にケアを行い》、《基準に縛られず、その場でできる方法で順次指導を開始する》ことで、介護を生活の中に折り込ませることを目指したケア行動を行っていた。自宅で継続して療養生活を送れるように、在宅療養者の家族が行う医療処置を支援できるよう、訪問看護師は開始の時期および方法も工夫していることが明らかになった。基準に縛られず、家族ができる方法から始め、家族のケアする力を育成していた。また、医療的ニーズがある在宅療養者の家族に医療的ケアの習得を支援することで、在宅療養の継続性がはかれ、地域包括ケアシステムの構築の推進に関与していることが示唆された。また、訪問看護師は療養者に関わるのと同時に家族にも包括的に関わっている。住み慣れた地域あるいは自宅で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けるために家族だけではなく、地域を巻き込んだ包括的なケアが不可欠であることが示唆された。

(2)訪問看護師および研究組織によりワークショップを開催し解決策の立案。体験ワークショップの開催でWeb上での在宅療養支援における訪問看護情報交換、共有から学習資源への転換へのディスカッションを行った。併せて認知症を中心に地域で在宅看護の講演も含め、訪問看護師と教育研究者が交流を図る。ワークショップで得た結

果を踏まえて、在宅療養支援に必要な訪問看護に関する情報・知識を創発するための情報内容を分析した。

訪問看護師 - 看護教育研究者間における「情報・知識の創発によるWeb学習」の共通理解をはかるため、ワークショップを実施した。テーマ「在宅ケアに関する多職種コラボレーションの推進」ワークショップを実施した。

対象:関東地方の在宅看護担当教員、訪問看護師で計22名であった。

方法:本研究の主旨、研究の結果概要の説明およびテーマに関する話題提供とディスカッションを行った。

結果として、介護する家族の健康状態は療養者の在宅生活の要となり、在宅療養家族の健康維持及び増進するためのセルフヘルスケアへの支援が重要である。多職種のコラボレーションの推進により、必要な情報を共有できることで、地域で暮らしている療養者とその家族が望む療養生活への支援につなげることができると示唆された。

健康促進の情報として、日常生活の間に場所と時間を問わず行えるセルフケアの一つとして疲労の緩和に有効なのが、漢方医学で取り入れられている経穴(ツボ)を押す方法である。漢方医学に基づくセルフケアの方法として正しく実践・体験することで、漢方医学の有効性をセルフケアの観点から、第32回日本保健医療行動科学会学術大会(千葉県鴨川市)にて、テーマ「漢方医学にもとづいたセルフケア」ワークショップを開催した。

対象:医師、看護師など計15名である。方法:セルフヘルスケアを中心に本研究の主旨、研究の結果概要の説明、テーマに関するセルフケアの体験、話題提供とディスカッションを行った。

セルフヘルスプロモーションの方法として、代替も取り入れることが有効であると見出した。以上の体験学習ワークショッププログラムから、セルフケアおよび健康支援の方法に役立つものとして、漢方医学にもとづいたセルフケア体験を実施した。

D. E. Oremは、セルフケアについて「個人が生命、健康、安寧を維持する上で、自分自身で開始し、遂行する諸活動の実践である」。そしてセルフケアは「自分のために」と「自分で行う」という二重の意味をもつと考えている。医療から健康へのサポートと看護の考え方が移行しつつある中、Oremの「セルフケア看護モデル」は看護理論の世界に応用されつつある。このような視点からセルフヘルスケアを考えると、経穴(ツボ)刺激は短時間でしかも特に道具等も必要とせず

に行えることから、セルフヘルスケアに適していると言える。

介護をする家族や地域で暮らしている人々健康増進のために、千葉県鴨川市と連携して、「健康で居つづけるための一つの提案『体験ワークショップ「ツボ」の一押し!』」ワークショップを実施した。

対象:地域住民 19 名である

方法:セルフケアを中心に本研究の主旨、研究の結果概要の説明、テーマに関するセルフケアの体験、話題提供とディスカッションを行った。

ワークショップ実施した結果、在宅療養生活は療養者が入院中のように常に医療と看護を受けられる状況ではない。退院後の個人の生活の中で自己管理することが求められるため、セルフヘルスケアスキルの獲得が質の高い在宅療養生活に必要な。また、介護する家族が実施できる漢方医学にもとづいたセルフヘルスケアを取り入れることで身体の不調状態が安定させることで、療養視野本人の在宅療養生活において継続することができる。この点を踏まえると、「経穴(ツボ)刺激」など自宅において自分自身で身体健康管理に対応することが重要である。同時に、歴史の長い漢方医学の成果を、セルフヘルスケアに利用できる実践可能な知識としてバランスを取りつつ広範囲に普及させるにはどうすれば良いか、今後さらに検討していく必要があると示唆された。

那須町訪問看護ステーションりんりんと連携し、「ヘルスプロモーション in 那須」というワークショップの開催。

対象:地域住民、訪問看護師、ケアマネジャー、介護職員など 25 名である。

方法:セルフヘルスケアを中心に本研究の主旨、研究の結果概要の説明、テーマに関する健康管理の体験、話題提供とディスカッションを行った。

健康を維持するために、インターネットを利用して、健康に良い情報を取り入れる。また、会議などの場で多職種間での情報交換が行われることもある。体の不調など訴えるケア対象の家族のために、セルフヘルスケアに関する情報の収集も行っている。

- (3)セルフケア・訪問看護情報 Web を通じて、多くの地域住民および在宅療養者、看護師が利用できるようにし、地域健康支援と在宅療養支援の質を高めるため、これまでの研究成果を基に、セルフヘルスプロモーションの情報として WEB にて公開した。メディア担当の研究分担者と十分に協議を重ね、コンテンツの内容を検討

した。また、必要時に情報を獲得しやすくするための方法、協力者のプライバシーなどのセキュリティ確保の方法も検討され、Web コミュニティ看護情報ネットワークの方向性を決定するに至った。

#### (6)成果全体の考察

訪問看護師は在宅療養支援の過程において、在宅療養者の家族の健康維持について、多様な知識と情報を明らかにや生活をしている療養者とその家族のニーズを様々な知識と情報の獲得が重要となっている。しかし、これまで在宅療養支援に関する訪問看護情報・知識、特に現場の看護師の経験や勘といった貴重な暗黙知は、病院内や訪問看護ステーション内といった特定の場において東洋医学に基づいたセルフヘルスケアは地域で生活している人々や地域で仕事をしている看護師の健康促進に、「セルフケアはその本人の主体的な取り組みである」ということである。そのため、健康教育プログラムは WEB を通じて情報提供し、セルフケア方法が応用可能であることが示唆された。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1 件)

- (1) 王麗華、日本温泉地的医療養老結合実践的研究、中国医院建築与装備、査読有、17.40-51.2016.

[学会発表](計 15 件)

- (1) 王麗華、他 経穴(ツボ)刺激を用いた身体痛みへのセルフケアの実施可能性、第 19 回日本健康支援学会年次学術大会(京都橘大学)2018.3.9
- (2) 平山香代子、王麗華、鈴木秀樹、在宅療養における痛みのケアに関する文献検討、第 19 回日本健康支援学会年次学術大会(京都橘大学)2018.3.9
- (3) 王麗華、磯山優 The Actual conditions of Japanese visiting nurse cooperation action、the 2nd Asia-Pacific Nursing Research Conference (APNRC)、(Taiwan、Taipei)2017.8
- (4) 王麗華、落合佳子、磯山優、訪問看護師の継続的ケア行動の特徴-認知症在宅療養者のケアを中心に-第 22 回日本在宅ケア学会学術集会(北海道札幌市北星学園大学) 2016、7
- (5) 王麗華 他 A Study on the Nursing Approach to Chinese Medicine、2016 The 4th CJK Nursing Conference(Beijing

- P. R. China)(国際学会)2016.11
- (6) Lihua Wang; Masaru Isoyama; Kayoko Hirayama、The Characteristics of Visiting Nurse's Care Action to the Family of Patients Involved in the Daily Life、2016 The1th Global Human Caring Conference (WUHAN・CHINA) 2016.10
- (7) Kayoko Hirayama、Lihua Wang、Masaru Isoyama、Connotations of 3 Concepts for Discharge Facilitation in Japan、The1th Global Human Caring Conference (WUHAN・CHINA) 2016.10
- (8) 王麗華他、統合分野における在宅看護論教育の課題、難病患者の在宅看護に関する教科書の比較から、日本看護学教育学会第26回学術集会(東京)、2016.8
- (9) 落合佳子・王麗華・平山香代子、認知症患者の在宅看護に関する教育上の課題～看護系大学で使用されている教科書の形式知の比較から～、第6回国際医療福祉大学学会学術集会(栃木県大田原市)2016.8
- (10) 落合佳子・王麗華 他、看護大学生の在宅看護学実習における看護技術の教育実践課題、第6回国際医療福祉大学学会学術集会(栃木県大田原市)2016.8
- (11) 平山香代子・王麗華・原田光子、看護基礎教育機関における海外研修の位置づけと実際、第6回国際医療福祉大学学会学術集会(栃木県大田原市)2016.8
- (12) 眞野明日花・平山香代子・王麗華、訪問看護師の職務に対する欲求 - 質問紙作成のための文献による概念の整理 -、第20回日本在宅ケア学会学術集会(東京国際会議場)、2016.7
- (13) 王麗華他、地域包括ケアを推進するための家族看護、第35回日本看護科学学会学術集会(広島県広島市国際会議場)2015.12
- (14) 磯山優、王麗華、李相和、佐藤任宏、訪問看護ステーションのガバナンスに関する理論的考察、第53回日本医療・病院管理学会学術総会(福岡県福岡市アクロス福岡)2015.11
- (15) 王麗華、平山香代子、太田浩子、福島道子、地域包括ケアを推進するための家族看護\_\_家族の介護力を高める支援を中心に\_\_、第35回日本看護科学学会学術集会(広島国際会議場)2015.12

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
 発明者：  
 権利者：  
 種類：

番号：  
 出願年月日：  
 国内外の別：  
 取得状況(計 件)  
 名称：  
 発明者：  
 権利者：  
 種類：  
 番号：  
 取得年月日：  
 国内外の別：  
 〔その他〕  
 ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

王麗華 (WANG LUHUA)  
 国際医療福祉大学・保健医療学部・准教授  
 研究者番号：20438774

### (2) 研究分担者

平山香代子 (HIRAYAMA KAYOKO)  
 亀田医療大学・看護学部・准教授  
 研究者番号：70469435

磯山 優 (ISOYAMA MASARU)

帝京大学・経済学部・教授  
 研究者番号：10258931

太田浩子 (OHTA HIROKO)

東京工科大学・医療保健学部・講師  
 研究者番号：30583934

安藤公彦 (ANDO KIMIHICO)

東京工科大学・メディア学部・助教  
 研究者番号：00551863

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：

### (4) 研究協力者

( )